

## 令和2年度第2回社会教育委員の会議 議事録

令和2年度第2回清瀬市社会教育委員の会議が令和2年6月22日に開催された。出席委員、議事の概要は次のとおり。

- 1 日 時 令和2年6月22日（月）午後3時～5時
- 2 会 場 生涯学習センター/講座室1
- 3 議 長 高井正委員（議長）
- 4 出席委員 島澤良次委員（副議長）、田中金子委員、齊藤しのぶ委員、西田由美子委員、松山鮎子委員、菊地俊一委員
- 5 事務局 坂田篤（教育長）、綾乃扶子（生涯学習スポーツ課長）、鈴木丈洋（生涯スポーツ係長）、岡部剛（生涯学習係長）、若林幹輝（生涯学習係主事）

### 1 開会

事務局：資料の確認

新任委員：菊地委員より挨拶

事務局：生涯学習スポーツ課長より挨拶

### 2 報告

#### 令和元年度事務報告について

生涯学習係長より生涯学習系の事業についての説明。

生涯スポーツ係長より生涯スポーツ系の事業についての説明。

（坂田教育長）

マスタープランに沿って、しっかり達成できているかどうか厳しく評価していただきたい。

専門家を招いて、点検評価を行っている。

やることには目的、指標がある。講座で何人集めることが出来た、ということが目的ではない。もっとより大きな指標がある。それをきちんと意見として出して欲しい。

(高井議長)

教育マスタープランで定めている方向性を報告資料に載せた方が分かりやすいと思う。その方が口頭で説明していただくだけよりも、どの方向性に沿って事業を行っているかがすぐに分かる。また、教育マスタープランの目標値と実績についても資料に記載して欲しい。事業の評価についても、提示していただけると良いと思う。指標の見える化、適切な指標が重要である。

石田波郷俳句大会については、実行委員会があり市は後援という立場なので、生涯学習系の事業として記載すると分かりづらくなってしまわないだろうか。区別した方がよいのではないか。

施設はいつから休館になっているか。

(事務局)

評価については、成果指標で示せるようにしていきたいと考えている。

3月6日から5月末まで休館とした。

(齊藤委員)

アイレック（男女共同参画センター）の評価が分かりやすかったので、参考にする  
とよいと思う。

(事務局)

今後、参考にしながら作成していく。

(菊地委員)

評価とは数値ではなく、その後どうつながったかを検証する必要がある。

### 3 議題

#### (1) 社会教育団体の補助金について

生涯スポーツ係長より、体育協会への補助金について説明

(坂田教育長)

補助金については、厳しい意見を出していただきたい。

(高井議長)

補助金要綱も資料として添付してあった方がよい。

(島澤副議長)

マラソン大会などがコロナの影響で中止となった。

(齊藤委員)

資料2-2について

体育協会負担分とは何か。

(島澤副議長)

会費のみでは赤字でありとても厳しい状況である。

加盟費は1回1万円となっている。

(高井議長)

補助金についてはどのように市で決めているのか。

(事務局)

補助金適正委員会で決定している。

※審議結果

異議なしで可決。

## (2) 清瀬市生涯学習方針について

(坂田教育長)

コロナの影響により対応に職員は追われていた。現在では夜間を除き開館している。

～資料をもとに坂田教育長より改めて生涯学習方針策定について説明～

少し前の資料のため、一部今に適していない部分もあるが説明させていただく。

新型コロナウイルスで分かったこととして、地域は学校に依存している事がわかった。「会社に行くことが出来なくなってしまうので、早く学校を始めて欲しい」という意見などが多くあった。このような状況は課題であると感じている。

地域との連携は学校や家庭の機能回復、それに伴う子どもの発達・成長にとって必須の理念であり、郷土愛を育みたいと考えている。

本市の地域の教育力のレベルは高いと思う。それは、強い思いと願いがあるからで

ある。まだシステムが確立していないことが課題だが、強い思いと願いがあることが強みで成り立っている。例えば、杉並区だとシステムがしっかりと出来ているので、早くシステムを確立させることで、清瀬市の強みを生かすことができる。システムの不確立の一つの要因は、システムを広げようとしても、なかなか乗ってこない傾向がある。

(課題として感じていること)

- ・限られた人的資源への依存や組織機能の硬直化の実態があること。
- ・民間、大学、NPOなどの地域の人的資源活用が一部に留まり、活用されていない。
- ・相互不干渉社会となっており、郷土愛が醸成されていない。

都市格の高い街づくりは、社会教育で実現できるものである。体育協会でも出来る。教育マスタープランは、行政と市民が一体となってコミュニティを創り上げていこうとする崇高な理念を表している。

ある地域で、大雪があると市に雪かきをしてくれとすぐに連絡があるという話を聞いたことがあるが、そのような人は、税金を払っているから市がやるのが当たり前だと考えていて、自治意識や市民としての当事者意識が無い状態である。

学校支援本部は今年で14校全校に設置される。自己有用感を育む必要がある。

コミュニティスクールについては、急いで設置せず、段階的に着実に進めていく。よって、来年1校ではなく、再来年にむけて動く予定である。

親でも先生でもない第3者の大人が子供と関わることによって「ななめの関係」が生まれ、この関係は非常に重要。

自主事業で学んだことを教える立場になる、学びの「循環」が重要なキーワードである。教えたいというDNAが人にはあるため、地域の人材の上手な活用が大切。

「地域との協働」は、子どもの命を守ることにもつながる

行政は、誰一人取りこぼさずに下から支える機能はあるが、やる気の高い子供たちをさらに伸ばすような、上へ引っ張り上げる機能が乏しい。地域がこのような力を持っていると考えている。

(結論・まとめ)

「手をつなぎ、心をつむぐ、みどりの清瀬」を市長部局と連携しながら進めていく。都市格の高いまち、健幸都市の実現、循環型・サステイナブルな社会を目指す。

以上のような、目指すべき姿をイメージしながら、方針の策定をお願いしたい。

～休憩～（5分程度）

（松山委員）

自主事業についての評価は難しい。マスタープランの事業の評価を提示していただくことが良いと思った。

学校・家庭・地域という中で、地域という言葉は分かりやすいが、人それぞれに地域の捉え方が違う。地域の定義を共有する必要がある。先程の雪かきのお話について、そのような人は当事者意識をもっていない、サービスを受給する側になってしまっている。

システムに乗ってこないことについては、実はやりたい思いはあるが、既存のものに乗っかるだけが嫌だと思っている人がいるのかもしれない。関わるのであれば、ゼロベースから作りたいと思っている人も多いはず。

斜めの関係について構築するのは時間が必要である。膨大な時間を掛け続けないと、密な関係を築くことは難しい。しかし、密な関係を築くには、大きな責任と覚悟が必要であり、人の人生にどこまで自分が踏み込んでいけばよいか分からない部分があるので非常に難しい。そういった部分がネックになっており、サポートする人材が増えにくいかもしれない。当事者（被害者）は支援を24時間求めているため、支援するのは容易なことではない。

（坂田教育長）

地域の定義としては、学区域を地域としてまずは考えたい。

（西田委員）

NPOでは、関わっている事業に助成金をもってこないと行けない。達成率など見える指標が必要である。

地域とは無責任につながれない。迷いながら子供たちとつながっている。ひとり親家庭に伴う、貧困、虐待などがあるが、内閣府からの評価をもらっているが、現場の人材が足りていないので、地域から人材を確保して行きたい。

地域というものの敷居を下げることも必要。

斜めの関係を構築するのは、難しいが理想であると思っている。

（齊藤委員）

学校ではコロナ対策で消毒を行っているが、学校支援本部の事業の中で連携している。

地域の方々には、無理なく出来る範囲で出来る時に出来る事をやっていただくこと

を望んでいるので、地域とは楽に行きたいと考えている。

(菊地委員)

学校の問題は世代問題であると思う。自分の子どもが学校に通っていると関心があるが、卒業してしまうと関心を無くしてしまい、そこで関係が途切れてしまう傾向がある。地域と協働していくことで、学校教育が世代問題ではなく社会問題になると思う。

新型コロナウイルスにより学校が保育機能を求められていると感じた。

関わり方、責任、地域との関わり方について、過去に勤務していた下町（台東区）の学校は、地域とのつながりの文化が醸成されていた。そこに糸口があるのではないかと考えている。

(島澤副議長)

昔の誰にでも挨拶しなさいという時代から、変な人とは挨拶をしてはいけないという時代になって、地域との関りが薄くなっていることが一つの要因だと感じている。

(菊地委員)

このような時代でも、いつも会う人とは徐々に挨拶をするようになる。

(坂田教育長)

たくさんのご意見ありがとうございました。

成果の見える化にはお金がかかっている問題がある。

成果指標と活動指標（何回実施して、何人参加したというような指標）とあるが、これからは成果指標にしなくてはいけない。

齊藤委員から発言のあった、地域とは楽に進めたいとあったが、出来る人が出来る範囲で無理なく行うことが重要であり、賛成する。

システムに乗ってこない人は、必ずしも受け身である人ではないと思う。

女川町長は、復興に30代の職員が関わるべきだと言っている。復興には20年程かかるため、現在、50代60代の職員が関わっては、将来責任をとることができないため。これは、他の業務でも将来的に自ら責任をとるくらいの意識を持って事業に関わるべきである。

斜めの関係では、関わった人にどこまで踏み込み、どこで一線を引けばよいかとても難しい。関りをやめる場合も、突然関りを辞めるのではなく、少しずつフェイドアウトする必要があり難しい。

人材不足は長い目で10年スパン20年スパンで考える必要がある。

(高井議長)

義務教育を卒業すると食卓で教育問題が出なくなる。

この方針では、「協働と循環」が重要なテーマである。

次回会議では、事務局が提示して下さった生涯学習方針の課題と方向性について、配布された資料を読み込んで議論を進めて行くことでよろしいでしょうか。

※全員承認

4 その他

(令和3年成人記念式典について)

新型コロナウイルスの影響で例年通りの開催方法は難しいと考えている。現在、他市や近隣市と情報交換し、状況を鑑みながら検討している。

(成人年齢の引き下げについて)

成人式で行った新成人へのアンケートや文科省の連絡会議などの結果を鑑み、20歳のお祝いとして、引き続き20歳を対象に実施する方向で検討しており、今年度公開に向けて動く予定なので、今後ご審議いただきたい。

(令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡会第1回理事会について)

議長のご都合がつかないため、今回は副議長と事務局2名で出席予定。

- ・生涯学習方針についてのスケジュール及び都市社連協の理事会・研修会等のスケジュールを説明。
- ・次回の会議日程を8月31日へ変更する旨を説明。

次回 令和2年度第3回社会教育委員の会議 日程 令和2年8月31日(月)

以上